

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林環境保全ふれあいセンター

平成23年度 年 報

〒090-0035 北海道北見市北斗町3丁目11-3
TEL 0157-23-2960 FAX 0157-23-2472
http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/



「オホーツクの森」春の紅葉

常呂川森林環境保全ふれあいセンターは、地域の方々とともに、将来に向けた森林づくりを考えていきたいと思っています。

常呂川流域を主な活動区域として、自然再生や森林環境教育の支援に取り組んだ、平成23年度の活動内容をまとめましたので、ご覧ください。

自然再生モデル事業の取り組み

1. オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会の取り組み

平成23年度のオホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会（以下、「協議会」と言う。）は、10月27日と3月14日の2回開催された。昨年度の協議会において、本来、目指すべき市民参加型の自然再生モデル事業への方向性がより明確に示された。それを受けて、本年度は、風倒被害地における試験地設置箇所、水棲動物調査箇所及び枝打ち実施箇所における現地検討を行い、モデル事業の進捗状況を確認するとともに今後の方向性について協議された。また、3月の協議会では、1年間の自然再生モデル事業の総括を行い、平成24年度の活動計画について協議された。



試験地設定箇所視察の様子

（1）風倒被害地の現地検討

平成18年度に発生した低気圧による強風により樹木が倒れたエリアにおいて試験地を設定した。試験地は、立木のない区域と、立木が残っている区域の二区域に分けて、それぞれの区域において①刈り払い箇所、②地掻き箇所、③苗木植え込みの各3プロットずつ（2m×5m）合計6箇所を設けた。今回は、「森林づくり塾」の塾生が行った。「今後は、プロット箇所の草刈り等の手入れを毎年ボランティア等で行い、経過観察を行っていく」と説明。委員からは「エジシカの被害防止用のネット等を張って比較してみるのも良いのではないか」の意見が出され、来春の状況を見て協議会で検討していくこととした。



水棲生物調査箇所視察の様子

（2）モニタリング調査箇所の検討

モニタリング調査は、年次計画に基づき、林分・植生・動物調査等を行っているが、より多様で総合的な森林機能を評価すべく、今年度、初めて水棲動物調査を実施した。自然再生モデル林周辺の森林は、過去における伐採等により、魚の姿が殆ど見られないと言われていた。調査結果として、ヤマメ、アメマス、フクドジョウ、カワヤツメ、ハナカジカ等が確認され、自然が回復傾向にあることが分かった。委員からは「資料を見て、どの位の河川規模なのかと思ったら、このような小さな沢にあれだけの魚類等がいることに驚いた。今後も調査を継続し、記録を引き継いで欲しい」との意見が出された。



枝打ち実施箇所視察の様子

（3）枝打ち実施箇所の検討

この箇所は、間伐（植栽木を間引いて太陽の光を入れ、森林環境を改善する作業）を見合わせた箇所で、下枝や枯損木（枯れた立木）があり、光環境が悪い状態になっていた。今年度、塾生により、枝打ちや枯損木を倒す作業を行い、森林の手入れを行った。委員からは「前回、この森を見たときは、もっと間伐をしなければと感じたが、枝打ち等だけでこれだけ環境が改善されると思いませんでした。今後、このモデル林がどう変わっていくのか楽しみにになりました。」と感想が述べられた。林床には、ミズナラ等の稚樹が生えてきており、太陽の光も届きやすくなり、今後、林床の活性化が期待される。



「森の家」での協議会の様子

(4) 第1回協議会のまとめ

現地検討を終えた一行は、第1回協議会のまとめを行った。主な意見として、①現地を見させて頂き、これからモデル林の将来が楽しみだと思っています。「森林づくり塾」の成果をみると、名前は変えても続けて欲しい。②植樹体験する機会があっても枝打ちや伐倒等の体験は中々できない、枝打ち等の林業体験を継続して欲しい。③林業体験等を通じて世代間の交流の報告を聞いて感銘した。④林業の専門家でなくても市民目線で（協議会に）意見反映できるので、ボランティア組織としても林業体験等を通じて元気をもらっている。等々の意見や感想が述べられた。最後に、久積会長が「皆さんの感想や意見を要約すると『いいことをやっているね、これからも引き続き継続して欲しい』ということだと思います。」とまとめた。第2回となる3月の協議会には、今回出された意見等を踏まえ、活動報告と次年度活動計画を事務局から提起することが確認され、本年度、第1回の協議会が閉じられた。

引き続き継続して欲しい』ということだと思います。」とまとめた。第2回となる3月の協議会には、今回出された意見等を踏まえ、活動報告と次年度活動計画を事務局から提起することが確認され、本年度、第1回の協議会が閉じられた。

(5) 第2回協議会「自然再生モデル林の多様な生態系把握の前進の年に！」

第2回目の協議会では、3月14日（水）開催され、平成23年度の活動報告と平成24年度の活動計画について協議を行った。一昨年から市民参加型の自然再生モデル事業に踏み出し、H23年度の事業展開の中で、一定の前進をみた。平成24年度は、ボランティア団体等が行う植樹・育樹活動や森林づくり塾について、さらに参加者が目的意識を持ち行えるような内容とすることが議論された。

一方、モニタリング調査では、昨年の水棲動物調査で、コガタカワシンジュガイ等の生息が確認され、H24年度の調査は、支流3本について行うとともに、シンジュガイ等の生息範囲の実態把握に努める。また、動物調査では、ヒグマやジュウジギツネの個体も初めて写真撮影され、H24年度の調査は、さらに調査項目を拡げ、コウモリの種の把握や夏・冬鳥の把握のため6・11月の年2回調査を行うことについても議論され、検討していくこととされた。

2. 自然再生モデル事業モニタリング調査の実施結果について

自然再生モデル林内におけるモニタリング調査は、年次実施計画に基づき行われている。平成23年度の野生動物定点自動写真撮影調査でカメラに納まった森の住人たちの一部を紹介する。



3. 自ら考え・実践する森林づくりを目的とした「常呂川森林づくり塾」を実施

今年で3年目を迎える「常呂川森林づくり塾」は、「自ら考え・実践する森林づくり！」をコンセプトに開催した。この塾は、森林・林業に理解を深め、森林ボランティア活動の中核的な存在になりうる人材育成を目的と行うもの。今年度は「山で気持ちの良い汗を流す塾」から、一歩前へ進め、自然再生モデル事業の目指す森林づくりの方向性について理解を深め、さらに自分の山として「森林づくり」を考え、実践する内容構成とした。第1回目の塾は、自然再生モデル事業と森林づくりの基本スタンスについて理解を深め、2回目は、風倒被害地の歩道作設と試験地の設定を行い、3回目は、枝打ち作業と試験地への苗木植栽を日赤看護大の学生と行った。目的意識をもって行う森林づくりと世代間の交流が深まった平成23年度の塾について、ここに報告する。

(1) 第1回塾：森の見方、森林づくりを学習！

本年度、第1回目の「森林づくり塾」は、6月18日、8名の塾生が参加し、開催された。

まず、最初に「自然再生モデル事業」のこれまでの経過と目的について説明することから始めた。この事業は平成15年に成立した「自然再生推進法」を受け、オホーツクの森に約97%の自然再生モデル林と設定した。さらにモデル林の取り扱いについて、専門家からなる「オホーツクの森、自然再生モデル事業」検討委員会を立ち上げ、ランドデザインなど事業方針が平成17年に決定された。私たちは、それに基づき、アカエゾマツやストローブマツの人工林を100年前の森林の姿（針広混交林）に市民の皆さんと一緒に考えながら導いていくプロジェクトであるとの説明を行った。

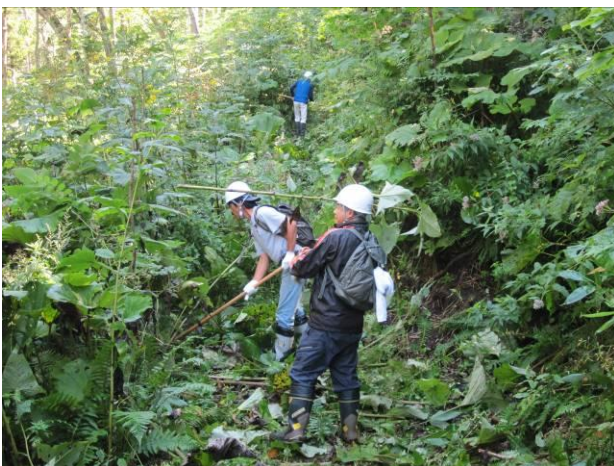
座学のあとは、実際に生モデル林に入り、どのような山づくりを具体的に描くのか、全体像をつかんでもらった。また、自分の山であったら、どのようなことをしたいか。山は何を求めているか、考えてもらうように務めた。参加者からは「森林づくり塾の目的や流れが理解できた」との感想があった。また、この日、NHKからの取材があり、その模様は、ローカル版と全道版で放送された。



指導官から森づくりの説明を受ける塾生



森林踏査に同行取材するNHK記者(右端)



風倒被害地までの歩道を整備する塾生

(2) 第2回塾：歩道の整備と試験地を設定

8月27日、風倒被害地と林道を結ぶ歩道の整備と試験地の設定作業が行われ、12名の塾生が汗を流した。

この日は、北海道では珍しく湿度が非常に高く、塾生は蒸し暑さとの戦いともなった。最初に取りかかったのは、風倒被害地までのアクセス路の整備だ。この歩道は、昨年塾生が途中まで整備を行ったが、250mほど未実施であった。枝条を片付け、大鎌での雑草の刈り払い、クワで地掻きを行い整地する作業だ。この作業は見た以上に忍耐力と技術力が要求される。塾生たちは連携良く、しかも安全に作業を行い予定時間通りに完成させた。

○A区域に3箇所、B区域に3箇所、合計6箇所の試験地を設定

午後は、試験地設定作業を行った。この試験地は、無立木地（立木が無い所）のA区域と多少立木が残ってB区域に、2×5mの長方形の試験地を①刈り払い箇所、②地掻き箇所、③植え付け箇所をそれぞれ設定し、今後、この試験地がどのように推移していくか経年観察を行うのが目的だ。A区域3箇所、B区域3箇所の計6箇所の試験地設定作業に塾生2名で班を編成し、それぞれ作業に取り掛かった。蒸し暑い中、しんどい作業となったが、1時間余で作業終了。立派に完成させた歩道と試験地を見つめる塾生たちは、達成感と充実感に満ちているようであった。



試験地設定作業に汗を流す塾生



試験地は、周囲テープを張り、看板を立て完成

(3) 第3回塾：日赤看護大学生とのコラボで枝打ち作業と試験地への植樹を実施



枝打ち作業を行う塾生と看護大の学生



枝打ち作業後のスッキリした林内の様子

3回目の森林づくり塾は、10月1日、モデル林内で行われた。今回のテーマは、枝打ち作業と試験地への苗木植栽の林内での実技だ。参加した塾生は5名だが、日本赤十字北海道看護大の学生4名の若い援軍があり、塾生も勇気と元気をもらった。早速、塾生と学生がペアを組んで作業に取り掛かった。「上良し、伐倒方向良し」の声が林内に響き、枯損木が倒れる。ジャングルのような林内も塾生と学生の頑張りで林内は見事スッキリになった。

「この森を来年も再来年も見たい」「この仲間たちと今後も作業したい」と嬉しい感想も聞いた。

○試験地にミズナラの稚樹を植栽

午後は、風倒被害地の試験地へ苗木植栽を行った。苗木は、モデル林内の作業道沿線に生えるミズナラの稚樹を採取。植栽は、指定された試験地へ巣植え（5～6本まとめ植え）や列状植えと変化をもたせた。朝からの共同作業で、塾生と学生たちは、すっかり息が合い、予定されたメニューを全てやり遂げた。「この森を来年も再来年も見たい」「この仲間たちと今後も作業したい」と嬉しい感想も聞いた。



ミズナラの稚樹を試験地に植える塾生と学生

4. 自然再生モデル林における自然再生モデル事業の推進状況について

平成23年度は、自然再生モデル林の樹種転換を図るエリア（9.20^号：ストロブ造林地）において、5団体124名がカミネッコン植樹や植樹箇所周囲の下刈作業等を行った。この取り組みにより、同エリア内に85本の苗木が新たに植樹され、延べ本数は900本（185箇所）を超えた。また、今年度、新規の取り組みとして、森林ボランティア「オホーツクの会」が森の家周囲と遊歩道の草刈りや歩道整備と2回の自主活動を行った。ここに各団体の取り組み状況について報告する。

（1）新任の教職員19名がモデル林にカミネッコン植樹を実施

6月9日（土）、オホーツク振興局管内各地に採用された小・中学校、養護学校、高等学校の新任の教職員19名がオホーツクの森に集まり、地域研修（自然観察基礎講座）として自然再生モデル林にカミネッコン植樹を行った。普段使い慣れていない大鎌や鍬、金棒などを駆使し、全員が協力して作業を行った。完成した植樹箇所、笑顔でポーズをとる先生方の姿が印象に残る。



佐々木指導官の指導でカミネッコンが完成



植樹を終えて笑顔で喜びを表現する教職員



植樹箇所にカミネッコンを並べる北辰の社員

（2）北辰土建、3年連続の植樹活動を展開

7月2日（土）、（株）北辰土建の職員とボーイスカウトの26名がカミネッコン植樹を行った。同会社は、地球温暖化防止など環境保全活動に取り組んできたが、さらに生態系保全活動や緑化活動を積極的に行うことと、職員が一体となった意識を持つ必要性から植樹活動を展開し、今年で3年目となる。また、青少年と共に行う活動は、注目に値する。当センターは、このような活動に、今後とも積極的に支援していく。

（3）生長の家、4度目の植樹活動を実施

7月31日（日）、生長の家の夏季野外研修として、21名がカミネッコン植樹を行った。同団体は、「炭素ゼロ運動」の一環として、平成19年度から植樹等を行っており、今年で4度目のイベントとなる。同団体は、オホーツクの森にカミネッコン植樹を最初に行ったパイオニア的存在。また、家族連れでの参加者が多く、5年経つと幼児は小学生に、小学生は中学生にそれぞれ成長、時代の重みを感じさせられるイベントであった。



カミネッコンに散水する「生長の家」の家族

(4) オホーツクの森づくりで、食害防止シートの修繕や草刈りを実施



開会式で挨拶するオホーツクの会の長谷川副会長



植樹箇所周囲の草刈り作業に取り組む参加者



参加者が協力し、草刈り・シート補修作業を行う様子

7月23日(土)、森林ボランティア「オホーツクの会」主催によるオホーツク森づくりが開催され、会員や一般市民、網走中部森林管理署、日本赤十字北海道看護大の学生など総勢39名が参加し、カミネッコン植樹箇所の草刈りや食害防止シートの修繕作業を行った。また、昼からは、場所をサロマ湖畔にある幌岩山に移動し、森林散策と展望台からの眺望を楽しんだ。

オホーツクの会が自然再生モデル林の森づくりを担って3年目となる。長谷川副会長の「今日は安全に作業を行い、自然を存分に楽しんで下さい」の開会の挨拶の受け、早速、草刈り班、シート修理班、シート取り換え班に分かれ、作業に取り掛かった。下刈り作業の進行より、食害防止シートの全容が次々を表す。破れたシートは取り換えられ形もスッキリとした。1時間余の作業で、見違えるように作業地は変わった。苗木も久々に陽光を浴び飲んでいように見える。昼からは、幌岩山遊歩道の森林散策で疲れた身体を癒し、涼を楽しんだ。最後に待っていたのは、展望台からの360度の大パノラマだ。この日は、オホーツクブルーの晴天で、サロマ湖から知床連山まで見渡すことができた。来年の再会を約束して、一大イベントは無事終えた。



森づくり作業の御褒美は、展望台からの大パノラマ

(5) 森林ボランティア「オホーツクの会」が自主的に森林整備活動を実施



「森の家」周辺の草刈りの様子



ヨイショ！と倒木を除去する様子

「オホーツクの会」の自主的として森林整備活動が今年から始まった。6月26日は、鞆師会長他3名が「森の家」周辺の草刈り作業を、9月17日には、吉田事務局長他7名が参加して、モデル林内の歩道の草刈り作業を行った。当センターでは、このような自主的な森林整備活動を支援していく。

(6)「流氷を守り隊」がオホーツクの森で植樹活動を実施



1個1個丁寧にカミネッコン苗木を並べる参加者

オホーツクの森における森林整備活動の今年度最後を飾ったのは、オホーツク観光連盟とオホーツク総合振興局主催の「流氷を守り隊」によるカミネッコン植樹だ。この日、あいにくの雨模様の中、オホーツクに森に集まった19名の親子は、流氷を守る願いを込めて、植樹作業に取り組んだ。作業を始める頃には、雨も上がった。1人1個のカミネッコンを完成させ、自然再生モデル林に、草を刈り、地剥ぎを行い整地し、そこに「大きくなれよ！」と願いを込め、植樹を行った。最後は、動物に食べられないように食害防止シートを巻いて完成。参加者からは「また、植樹を行いたい」「植えた木を見にきたい」との心強い声も聞かれた。「皆さんの今日の活動で約4畳の流氷が守られます」との主催者の挨拶が心に残った。

森林環境教育の取り組み

平成23年度の森林環境教育支援の取り組みは、オホーツクの森に留まらず、阿寒の森や屈斜路湖畔までフィールドを拡げて活動を行った。オホーツクの森における取り組み状況は、今年度オープンした平安の森遊歩道で、5回で92名、古の森では2回と38名、併せてイベント数で7回、参加人数は130名でした。オホーツクの森以外では、オホーツクの会が主催した、幌岩山展望台遊歩道、阿寒国立公園のオンネトー、弟子屈町ポンポン山と3回の森林散策会、そしてオホーツクの森案内友の会が鹿の子沢風景林で行われた冬山研修について、それぞれ森林ガイド等の支援を行った。

1. センターから発信する森林環境教育「オホーツクの森 探検隊」の取り組み

今年で2年目となる「オホーツクの森 探検隊」は、8月4日、15名の親子が管内から参加し、森林ボランティア「オホーツクの会」と共催で実施した。「オホーツクの会」会員によるアイスブレイクや竹とんぼ作りなどの新メニューも加わり、より楽しみながら学べる内容となった。はじめに藤生探検隊長（センター所長）から「皆さんには、森の中で色々体験してもらいます、最後まであきらめないで、力を合わせて頑張りましょう」と激励を受け探検隊が始まった。

(1) 隊長（所長）からのミッション（指令）を全隊とも見事クリア

オホーツクの会の吉田事務局長の指導のもと数種類のゲームを行いリラックスした隊員に、隊長から指令が下った。「①探検は競争ではありません、ゆっくりペースで歩くこと、②中間地点に到着したら、隊長に（トランシーバーで）連絡を入れること、③三つのチェックポイントでは、何があるか確認すること、④『こわい』と思ったら森の番人（スタッフ）に頼ること。」クマゲラ、モモンガ、エゾリスの3隊は「森の番人」ともに森の中に歩を進めた。「ここがチェックポイントだ、あそこにキノコがあるよ！」



森の探検だ「さぁ出発！」森の中へ



探検後、ターザンロープを楽しむ！

と声が挙がった。隊員たちは、双眼鏡や地図など探検七つ道具を手に、昆虫や動物の痕跡を観察、野鳥のさえずりに耳を傾け、様々な形をした木の葉っぱに気づき、こうして森の沢山の不思議を発見しながら1km余りのコースを元気に走破した。



木ねんど作りを指導の藤生隊長



竹とんぼ作り指導する長谷川さん

年、また来る！」の声を残して、帰りのバスに乗った。子供たちの胸の中には、森や自然の楽しさや不思議さ、そして「森の番人」との温かいふれあいが充ち満ちているに違いない。元気に手を振る子供たちに「また、来いよ！」と再会のエールを送り、「オホーツク森：探検隊」を終えました。

(2) 隊長の「皆さん、合格です」との言葉に隊員ニッコリ！

森の探検から戻った隊員は、森の中で発見した不思議を誇らしげに隊長に報告した。隊長から「良くできました、皆さん、合格です」との労いの言葉に、ニッコリと隊員は笑顔で応えた。隊長からさらに元気を注入されたようだ。また、幼児と保護者で編成されたカルガモ隊も森の番人とともに森林散策を楽しんだ。探検を終えた隊員は、番人手作りのブランコやターザンロープを存分に楽しんだ。

(3) 竹とんぼなど隊員全員が物作りを体験！

午後からは、木の葉を使った「葉っぱのアート」や「木ねんど」、そして薪切り体験、コースター作りにも挑戦した。この日のメインコーナーは、オホーツクの会長谷川副会長の指導による、竹とんぼ作りだ。オジイちゃんの如く、愛情のこもった隊員との言葉のキャッチボールで、隊員は見事に竹とんぼ作りに集中。こうして、全員が竹とんぼ作りも体験した。完成させた竹とんぼは、ラワンの模型と共にオホーツクブルーに染まる空に、天高く舞った。

(4) 森の番人と再会を約束して！

隊員たちは、森の探検や物作り体験で完成させたお土産を両の手と胸に抱え「来年、また来る！」



森の探検を終えて集合写真に納まる隊員と番人

2. 学校や教育機関等と連携した森林環境教育支援の取り組み



「古の森」での自然観察の一場面

平成 23 年度の教育関係機関等と連携した取り組みは、6 月 9 日(木)に新任の教師等 19 名を対象に、古の森遊歩道で初任者研修（自然観察基礎講座）が実施された。

この研修は、オホーツク教育局の依頼で毎年行っている。今回は、森林と生物多様性をテーマで実施。「森林は多様な側面や機能があり、その集合体が森林なのです。その恩恵を受けているのが動物であり、我々人間なのです。ですから森林や自然を保全して、未来の子孫にリレーすることがとても大切なのです。」と強い想いを込めて説明を行った。寄せられた感想の中に「森林に全く興味がなかったのですが、研修を通じて、森林の大切さ、偉大さに触れることができ、良い研修になりました」とあり、逆に元気を貰う研修となりました。

3. 森林管理署やNPOボランティア団体等と連携した森林環境教育支援の取り組み

(1) 森林官等とのフィールド見学・意見交換会

森林官等のフィールド見学・意見交換会は、7 月 21 日(木)、オホーツクの森で行われ、10 名の森林官等の参加があり、植物の同定調査等に熱心に取り組んだ。

ムラサキツメクサ、ハウチャクソウ、ハンゴンソウ、エゾトリカブト・・・等々、一つひとつの植物の名前と特徴を説明しながら、平安の森遊歩道の森林散策を行った。午後からは、場所を古の森に移し、二人一組になって植物同定調査を行い、互いに研鑽を深めた。まとめでは「もう少し時間をかけてやって欲しい」との声が挙がり、次年度の課題となりました。



植物を手に特徴を調べる参加者

(2) ボランティア植樹記念森林散策会支援



○と き：平成 23 年 5 月 25 日（ガイド支援 1 名他）
○場 所：平安の森遊歩道 ○参加者：一般市民 20 名

(3) (株)北辰土建植樹活動記念森林散策会支援



○と き：平成 23 年 7 月 2 日（ガイド支援 1 名他）
○場 所：平安の森遊歩道 ○参加者：社員・家族・ホーイカウト 26 名

(4) オホーツク森づくり記念森林散策会支援 (5) 生長の家夏季野外研修：森林散策会支援



○と き：平成 23 年 7 月 23 日（ガイド支援 2 名他）
○場 所：幌岩山展望台遊歩道 ○参加者：一般市民等 35 名



○と き：平成 23 年 7 月 31 日（ガイド支援 1 名他）
○場 所：平安の森遊歩道 ○参加者：生長の家の家族 21 名

(6) 「オホーツク会」夏の森林散策会支援



○と き：平成 23 年 10 月 8 日（ガイド支援 2 名他）
○場 所：阿寒国立公園オンネットー ○参加者：一般市民等 50 名

(7) 「流水を守り隊」森林ウォーク支援



○と き：平成 23 年 10 月 15 日（ガイド支援 2 名他）
○場 所：古の森遊歩道 ○参加者：流水を守り隊の家族 19 名

(8) オホーツクの森案内友の会冬山研修支援 (9) 「オホーツク会」冬の自然観察会支援



○と き：平成 24 年 2 月 26 日（ガイド支援 1 名他）
○場 所：置戸町鹿の子沢遊歩道 ○参加者：一般市民等 35 名



○と き：平成 24 年 3 月 3 日（ガイド支援 2 名他）
○場 所：弟子屈町ボンボン山 ○参加者：一般市民等 43 名

その他の取り組み

国際森林年記念ボランティア植樹を盛会に実施

平成 23 年 5 月 25 日（水）、国際森林年記念行事としてボランティア植樹がオホーツクの森で開催、端野小、常呂小、一般市民等を含め 225 名が参加して 600 本のミズナラを植えました。

道内最初の国際森林年記念行事となることから、北見事務所、森林管理署、当センターと実行委員会とが一体となって取り組み、盛会に終え、次の開催地に国際森林年のタスキを渡しました。併せて、山菜採りと森林散策会も行われました。



国際森林年ボランティア植樹の様子

北の国・森林づくり技術交流発表会で最優秀賞受賞

平成 23 年度北の国・森林づくり技術交流発表会が平成 24 年 1 月 26・27 日、北海道森林管理局で行われ、当ふれあいセンターから「人を育て、森林（もり）を生かす」と題して発表した佐々木指導官が森林ふれあい部門において、最優秀賞を受賞しました。発表内容は、自然再生モデル事業を推進する企画運営協議会の取り組みや具体的に事業展開した森林づくり塾などについて発表したものです。佐々木指導官、お疲れ様でした。尚、今後、林野庁においても発表する予定です。



技術交流会で発表する佐々木指導官

各地で写真パネル展を行いオホーツクの森の魅力をPR!

【「緑と花の春の園芸祭」で写真パネル展】

○平成 23 年 5 月 1 日、○サンドーム北見

【オホーツク「木」のフェスティバルでパネル展】

○平成 23 年 5 月 20～22 日○サンドーム北見

【北見市緑のセンターで写真パネル展】

○平成 23 年 10 月 1～16 日、○緑のセンター

【「道民の森づくりネットワークの集い 2011」で写真パネルを展示】

○平成 23 年 10 月 22 日 ○旧赤レンガ前庭

【「オホーツクみどりネットワーク全体会議」で写真パネルを展示】

○平成 24 年 1 月 30 日、○オホーツク総合振興局合同庁舎（網走市）

【「オホーツクの会」総会で写真パネル展】○平成 24 年 3 月 25 日、○北見市緑のセンター



木フェスティバルの写真パネル展の様子



(正面玄関左側が当センター事務室です。)

北海道森林管理局
常呂川森林環境保全ふれあいセンター
 090-0035 北海道北見市北斗町3丁目11-3
 TEL 0157-23-2960
 050-3160-6321
 FAX 0157-23-2472

常呂川森林環境保全ふれあいセンターは、国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全等に取り組むNPOや、森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を支援しています。